

うたごよみ

# 曾於文藝

## 俳句

### 末吉俳句会

弾けとぶ種の戦略釣舟草

小野 明日香

水涸れて大役果しし流れかな

川崎 多恵子

新藁の車車に道ゆずり

前原 悌子

### 大隅俳句会

老の身やひと日一枚障子張り

川崎 綾子

とれぬ柿小川に影を落しをり

吉川 ツミ

小春日や課外授業の子等に会ふ

岩重 みどり

## 短歌

### 末吉山茶花短歌会

生命線どちらが長いかに比べ  
合う老いて残るはどちらも  
淋し

西 昌子

黒揚羽百合とたわむれ飛び立  
てり大暑の日照りものともせ  
ずに

福島 恵美子

口蹄疫終息となり国道を仔  
牛積載のトラツク走る

松下 和子

### 大隅短歌会

圓高の続く不況の世の中に  
明るき話題ノーベル賞あり

渡辺 哲夫

脱農を決めて最後の仕事終  
へ機械を洗う夫の背見てる

加塩 秀子

木犀のかおり漂う小庭辺に  
はるかな人を偲ぶ夕暮れ

吉崎 フサ子

「題字」

末吉文化協会会員

瀬戸口 淳 氏

### 財部短歌会

沿線の鳥のねぐらも刈りとら  
れ轉りのなき朝のむなしさ

井上 澄子

昭和の歌謡で親しまれ古里の  
畦に咲く赤きまんじゆしやげ

児玉 次雄

何事も無きが如くに日は昇り  
時計の秒針げに急がしさう

橋口 貞男

この障害居座ざればこそ我が  
人生今幸せと思ふ妻の吟聞く

祝迫 道雄

静かなる秋雨に濡れつややか  
に狭庭に咲きしコスモスの花

川俣 若

四角豆採りつつ偲ぶは友如何に  
種子賜ひし人ぞ幾年過ぐるや

瀬戸口 芳子

峡の田に稲は実れど夏の日の  
惨禍の跡も目に白白し

富山 治雄

引出しの奥に仕舞ひし一枚の  
写真は招くかの日かの時

杉村 リカ

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

爺の買物 袋は全部 焼酎肴

桐野 奈世

福の神 袋を下げつ 寄いやんせ

古川 一幹

ご馳走見て ま一枚足せた  
祝儀袋

鈴木 一泉

### 大隅薩摩狂句会

年度末掘つちや埋めちよい  
修繕仕事

神宮司 素水

修繕たくく着せた婆べ掘い  
一斗甕

黒木 義士

台風奴修繕た葺をまた捲つ

山田 竜生

